

生産は二次合金、圧延品とともに増加

橋本金属 橋本健一郎氏リポート②



五月前半は、四月のユーロ圏製造業PMI改定値は五六・七に下方修正。三月の五六・二から上昇し、二〇一一年四月以来六年ぶりの高水準、四月の中国生産者物価指数は前年比六・四%上昇、予想の六・七%上昇を下回る。四月の中国消費者物価指数は前年比一・二%上昇、予想の一・一%上昇を上回るなどこのプラス材料もあつたが、米雇用拡大による六月利上げ確率九〇%となり、これがメタルを圧迫し続落、四月の米自動車販売は前年比四・七%減の年率換算一・六八八万台。

四ヶ月連続の前年割れ民間発表の四月の中国サービス部門PMIは五一・五に低下、二〇一六年五月以来の低水準。総合指数も五一・二に低下、二〇一六年六月以来の低水準、中国の貿易統計結果が予想を下回ったことからLMEアルミニ相場はDOWN、五月十五日時点で一・八八〇・五ドル(現物後場買い)と月初価格から三〇・五ドルDOWNの前半締めとなつた。

後半は、ムードイーズインバスターズは、中國の自國通貨建てと外貨建て格付けをA A 3からA 1へ一段階引き下げた。中国の成長鈍化や債務拡大が続くに伴い今後数年で財政面の健全性が低下するとの見通し、中国国家統計局が発表した五月の製造業PMIが前月比横ばいで市場予想を上回つたが民間発表の五月の中国製造業PMIは四九・六となり節目の五〇を一ヶ月ぶりに下回り下げるなどのマイナス材料もあつたが中国の習近平国家主席、一带一路構想に一、二四〇億ドルを投じると表明。サウジアラビアとロシアが減産期間延長との見解で合意したこと好感、六月六日現在でLMEアルミニ(現物後場)は一・九〇九・五ドルと後半スタート価格から五ドルUPしてのスタートとなつた。

◆月間のドル/円レート (TTS)
一一二・八〇→一一・七七(円)。

◆自動車生産台数
日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比一六・三%増の七四万九、〇八七台であった。

◆自動車販売台数
日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比六・一%増の二三万台であった。

七、五二二台。

橋本健一郎氏

・アルミ 橋本健一郎氏リポート②

五月前半は、四月のユーロ圏製造業PMI改定値は五六・七に下方修正。三月の五六・二から上昇し、二〇一一年四月以来六年

ぶりの高水準、四月の中国生産者物価指数は前年比六・四%上昇、予想の六・七%上昇を下回る。四月の中国消費者物価指数は前年比一・二%上昇、予想の一・一%上昇を上回るなどこのプラス材料もあつたが、米雇用拡大による六月利上げ確率九〇%となり、これがメタルを圧迫し続落、四月の米自動車販売は前年比四・七%減の年率換算一・六八八万台。

四ヶ月連続の前年割れ民間発表の四月の中国サービス部門PMIは五一・五に低下、二〇一六年五月以来の低水準。総合指数も五一・二に低下、二〇一六年六月以来の低水準、中国の貿易統計結果が予想を下回ったことからLMEアルミニ相場はDOWN、五月十五日時点で一・八八〇・五ドル(現物後場買い)と月初価格から三〇・五ドルDOWNの前半締めとなつた。

後半は、ムードイーズインバスターズは、中國の自國通貨建てと外貨建て格付けをA A 3からA 1へ一段階引き下げた。中国の成長鈍化や債務拡大が続くに伴い今後数年で財政面の健全性が低下するとの見通し、中国国家統計局が発表した五月の製造業PMIが前月比横ばいで市場予想を上回つたが民間発表の五月の中国製造業PMIは四九・六となり節目の五〇を一ヶ月ぶりに下回り下げるなどのマイナス材料もあつたが中国の習近平国家主席、一带一路構想に一、二四〇億ドルを投じると表明。サウジアラビアとロシアが減産期間延長との見解で合意したこと好感、六月六日現在でLMEアルミニ(現物後場)は一・九〇九・五ドルと後半スタート価格から五ドルUPしてのスタートとなつた。

◆月間のドル/円レート (TTS)
一一二・八〇→一一・七七(円)。

◆自動車生産台数
日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比一六・三%増の七四万九、〇八七台であった。

◆自動車販売台数
日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比六・一%増の二三万台であった。

◆新設住宅着工戸数
国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比一・九%増の八万三、九七九戸であった。

◆輸出
財務省貿易統計によれば、輸出はアルミニ新地金が前年比七六・三%減の六三t、二次合金が七二・一%増の三、〇三六t、スクラップが二六%減の八、〇七一t、アルミニ缶が二七・六%増の五、五四四t。

輸入

輸入は新地金が前年比三・二%減の一三万四、二五八t、二次合金が一四・一%増の一〇万〇、八一〇t、スクラップが四・六%増の六一三t、合金スクラップは五七・一%増の三、六七一t。

■前月の国内指標

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比四・五%増の一七万七、一四四t。
日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比二・五%増の六万六、二〇四tであった。

概況

【自動車生産】
四月の四輪車生産台数は七四万九、〇八七台で前年同月比一六・三%増となり、七月月連続前年同月を上回つた。

輸出は三七万一、八二七台で前年同月比〇・七%の増加。

【自動車販売】

五月の国内自動車販売台数(軽は除く)は二三万七、五一二台で前年比六・一%増と、一〇力月連続プラス。

うち、乗用車六・七%増、貨物二・二%増、バス九・五%増。

【住宅着工戸数】

平成二十九年四月の住宅着工戸数は八万三、九七九戸で、前年同月比で一・九%増となつた。また、季節調整年率換算値では一〇〇・四万戸(前月比二・〇%増)となつた。

・住宅着工の動向については、前年同月比で二力月連続の増加となつており、利用関係別にみると、前年同月比で持家、貸家、分譲住宅は増となつた。
・引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。(六面へ続く)

(四面より続く)

ラス。

生産、販売共に増加しており今後も期待。

前年同月比では先月の減少から再びの増加（前年同月比○・八%増、季節調整値の前月比二・四%減）。

（貸家）

前年同月比では一・八力月連続の増加（前年同月比一・九%増、季節調整値の前月比では一・六%増）。

（分譲住宅）

前年同月比では三カ月ぶりの増加（前年同月比二・九%増、季節調整値の前月比では九・九%増）。

（分譲マンション）

前年同月比では三カ月ぶりの増加（前年同月比一・三%増）。

（分譲一戸建住宅）

前年同月比では一・八力月連続の増加（前年同月比五・二%増）。

（アルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績）

前年比二・五%増の六万六、二〇四tと六カ月連続プラス。出荷は二・九%増の六万六、二五三tと三カ月連続プラス。うち、出荷先別では、鋳物七・三%増、ダイカスト〇・九%増、板〇・三%減、押出二五%増、鉄鋼〇・四%減、合金地金メーカー一%減、輸出三六・四%増。

【アルミニウム・押出品生産量】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比四・五%増の一七万七、一四四tと六カ月連続プラス。このうち、板類は生産が六カ月連続でプラス。出荷は二カ月連続プラス。押出類は生産・出荷ともに六カ月連続でプラス。

【輸出】アルミニ新地金が前年比七六・三%減の六三t、二次合金が七二・一%増の三、〇三六t、スクランプが二六%減の八、〇七二t、アルミ缶が二七・六%増の五、五四四t。

【輸入】アルミニ新地金が前年比三・二%減の一、二万四、二五八t、二次合金が一四・一%増の一〇万〇、八一〇t、スクランプが四・六%増の六一三t、合金スクランプが五七・一%増の三、六七二t。

【見通し】

・自動車は生産が一六・三%増。国内販売台数が前年比六・一%増。生産が七月連続プラス、販売も一〇カ月連続ブ

待。前年同月比では先月の減少から再びの増加（前年同月比一・九%増と前月の微増から小幅改善なつており、下げ止まり傾向かどうか今後の動向に注目）。

【価格・為替予想】

今日は米国のパリ協定離脱、ロシアゲート疑惑と中国経済、環境問題の動向に左右される。

パリ協定離脱に関しては、正式決定が決まれば石油、シェールガス増産からの原油などの下落などを受けて商品全体が下落する可能性あり。

ロシアゲート疑惑に関しては、即解決とはならないにしても議会で採めるようであれば、好調なNY株にも悪影響が懸念される。それらを踏まえた六月のアルミニ価格は、パリ協定離脱が撤回、ロシアゲート疑惑が環境規制が敷かれ生産活動に弊害がでている。この厳しい取り締まりが今後も続くのかどうかに注目。

前月に続き中国経済、環境問題に関しては、鉄、銅、アルミニなので、これまでにならない違法行為の可能性で、中国の環境規制が多少緩み、企業活動がこれまでとはいかないでも動き出した場合、五月高値の二、〇〇〇ドルを予測。いずれかの場合は一、九五〇ドル。下値はいずれの条件も達成できなかつた場合、五月一段安値の一、九〇〇ドル。

為替は、ここ最近のISによる国際テロ及びロシアゲート疑惑の動向次第。それらを踏まえ予測は、ISによる国際テロが治まらず、ロシアゲート疑惑で米議会が混乱した場合、高値は五月後半高値一段高の一〇九円台（TTM）を予測。いずれも行われなかつた場合、同安値の一、一四円台を予測。

スクランプ購買価格に関してはマイナス五円～〇円程度と予測している。

◇東工取（八日前引、限月六月）

金

白金

四、五三一円

パラジウム

出来ず